

チームネクストセミナー 合宿 in「和食タクシー」

7月21〜22日にかけてチームネクストの第16回セミナー合宿が福岡で開かれた。今回は、地元西日本新聞や東京交通新聞、テレビなどでも取り上げられている大稲グループの「和食タクシー」を、実際にチームネクストの会員メンバーに体験してもらい、全国で新しいタクシーサービスのメニューを開拓する一助として貰いたいというのが趣旨であった。

「和食」と「タクシー」が結びつかなかった皆さんに、このセミナーを通じ、地元での展開のヒントになったのではないかと思う。



21日の午前11時、セミナー会場となった「ホテル・ニューオータニ博多」に集合。北九州・三ヶ森タクシーの社長である、チームネクストの貞包代表世話人の挨拶を受けた後、早速、大稲自動車に改装されたロンドンタクシーやトヨタ・ベルフアリアなどに分乗して、福岡市博多区住吉にある料亭「嵯峨野」に向かった。

料亭「嵯峨野」はミシュランで三つ星を獲得した料亭であり、二代目の女

清野吉光氏のコラム 第103回

団塊 耕 志 録

清野 吉光(きよの よしみつ) 略歴

1950年 長野県四賀村生まれ、松本深志高校卒業。1968年上智大学外国学部ロシア語科入学、1971年 中退。その後印刷関係など様々な職業に従事。1976年清水市の日の丸交通入社。1980年静岡市内の事務機器センターに入社。1982年システムオリジンを仲間と創業、専務取締役。1992年代表取締役社長就任。2000年㈱タクシーサイト創立、現取締役会長。2007年タクシーアシスト代表取締役社長に就任。2016年3月システムオリジン社長退任。チームネクスト事務局長。



「人間業」の創造力

アメーバブログを始めました!
<http://ameblo.jp/ykiyono800>

大稲グループのあゆみ

将、藤井春奈子さんが「和」の基礎知識を講義してくださり、その後、懐石料理の昼膳をいただいた。さらに博多の券番(博多ではこの字を使わらしい)から4人の芸妓が来て、三味線と踊りを披露してくれた。

こういう世界に疎い私としては、ただポカンとするばかりだが、確かに「和の芸能」の世界であり、訪日インバウンド客も大変に喜ぶのではないかと思う。

料亭「嵯峨野」からホテルに戻り、大稲グループの南業務部長から「異業種コンソーシアム組成と地域活性化について」というテーマで90分の講演を聴いた。2001年に現在の稲員会長が大稲自動車経営を引き継ぎ、「人の営みを豊かに「人と生きる」(人間業)という経営理念の下に、子育て応援のこともタクシー(2007)、女性目線のプレママタクシー(2008年)、VIP対応のクラスA(2009年)、レディタク(2011年)など

の蓄積をもとに、本格的なインバウンド対応の取り組みを2015年3月より始めたとのこと。

2015年3月のチームネクスト・ロンドン視察で、稲員会長は「外から日本を見つめる」視点を心得、ロンドンのブラックキャブを「観光大使」としての意味で受け止め、その想いを受け継ぐべく、5月にブラックキャブ車両を導入した。

同年7月には和食タクシーを企画、日本の和食文化を発信するために、料亭など飲食店と連携した体験型観光タクシーを開発した。「人間業」という自らの事業の定義が、様々な試行の中で、高度なおもてなしの醸成、女性目線への注目と、富裕層へのターゲットの絞り込みとして結実した。

新サービスとして、ひとつはホテル・ニューオータニ博多と連携した、若い女性向けのシンデレラツアー(2015年)、そしてもうひとつは訪日インバウンド客および国内富裕層向けの超豪華ハイヤーサービスであり、そのための福岡ハイヤーサービス

の設立、また高級飲食店ガイドブック【FLAGGS】の創刊である。

ファミトリップ

こうした大稲グループの内部および関連組織との体制作りを背景に、観光庁が積極的に推進しているDMO（着地型観光推進組織）の視点から、行政、商工会議所、商工業、宿泊施設、農林漁業、飲食店、旅行会社、地域住民、交通事業者とのコンソーシアム作りが進んでいる。

その具体的なチャレンジとして、大稲グループでは今年2月に、中国や台湾の旅行事業者を招いての「ファミトリップ（下見招待旅行）」を、4泊5日の富裕層向けにだけ旅行として企画し、実施された。まさに先のDMOで想定される構成員の中で、交通事業者が企画し、推進し、地域の良さを発信するという今までに無い形であった。今回のセミナー合宿でも講演された株式会社有田まちづくり公社（地域活性化支援機構+金融機関）の佐藤社長、また同じく「拡大するイ

ンバンドとタクシーによる広域ドライブ観光の実現へ向けて」という演題で講演した、福岡商工会議所の三角本部長との連携、協力なくして、大稲グループのファミトリップ成功は難しかったかもしれない。

今回のファミトリップの内容としては、先の「嵯峨野」の「和」の体験のみならず、有田での人間国宝を含めた窯の特別見学、大川市での組子の体験と市長よりの組子皿の贈呈、柳川市のさげもん船の特別体験と市長よりのさげもん毬の贈呈、温泉地の嬉野市や武雄市の特別メニュー、さらに行政も九州運輸局、佐賀県、佐賀県観光連盟、福岡県、福岡県観光連盟の協力を得たという。またマスコミもこのファミトリップを大きく取り上げ、新しい観光の取り組みとして紹介した。

とりわけRKB毎日放送は4日間の密着取材を行い、その様子を3月2日にテレビで放送した。新聞社では西日本新聞社、東京交通新聞社、有明新報が報道をした。ファミトリップに参加し

た中国や台湾の旅行会社の反応も良く、ファミトリップとしては成功と言える。

一方で、このファミトリップを通じて見えてきた富裕層向けのインバンドトリップの課題もあるようだ。やはり富裕層向けの特別な旅行として催行するには団体と心地よさが必要であり、和食タクシーや人間国宝などとの交流により、特別な感動を生んでも、トータルに特別感を醸し出すためには、かなりの細やかな旅程の作りこみが必要となる。更なるノウハウの蓄積が必要とされるのだろう。

コンテンツ創造とネットワーク化

いま、タクシー業界は国土交通省との密接な連携の下にライドシェアの参入を阻止するのみならず、全タク連の活性化11項目を軸に、むしろライドシェアが必要とされないタクシー事業の抜本的な変革を目指している。

とりわけ、地域、あるいは全国、さらに海外のスマホ配

車システムとも連携し、需要と供給を最適化するネットワークの構築を目指している。このことは、ライドシェアの持つ利便性に対抗するためには、必須なことではあるが、しかし本質的には新たな需要、とりわけ付加価値の高い高度な需要を掘起こすには、高度な供給コンテンツの創造が決定的に重要である。

その意味で、大稲グループ、稲員会長の理念に基づくコンテンツ開発への意欲と、執念ともいえるべき細かい拘りは、高品質なコンテンツ創造のためには、本当に貴重な営みだと思う。場面、場面では突飛に思え（稲員会長はそれを自ら妄想と呼ぶが）、よく理解できなくても、理念に即して、少し長い視点で見ると分かってくる。このことは、直属の部下の方たちには大変だとは思いますが、是非このチャレンジを継続してもらうことが新しい移動産業⇨人間業としての移動産業創造につながる。そして我々もまた、その一端を担って行きたいと思う。

（2017年7月24日）



タクシー乗務員紹介事業

厚生労働大臣許可 有料職業紹介許可番号 13-ユ-307552

ヒューマンエンジンサポート株式会社

<http://td500.jp>

弊社は、元トップドライバー関隆氏による「流し方教室」受講の受付窓口です

ヒューマンエンジンサポート株式会社

〒101-0047 東京都千代田区内神田 1-12-14 廣瀬ビル1F

TEL: 03-5281-3088

